



説教	お膳立て	……	堤	隆	……	1
教会の課題	日本キリスト教会が一致して歩むために	……	南	望	……	2
新約聖書学への招待	マタイ27章19節の新しい訳 第4回	……	住谷	真	……	3
旧日本基督教会の草創期	植村正久を中心に(11)	……	崔	炳一	……	4
教会、この地とともに	③ 湘南教会 「あなたの未来には希望がある」	……	帆足嘉代子・澤谷由美子	……	……	5
大信仰問答2	ビジュアル版も出版されます!	……	久野	牧	……	6
書評	「キリストを捨てろ」といわれ、「いやです」と14歳の少年	……	五十嵐喜和	……	……	7
コロナ禍の中で	⑦ 大義の犠牲となるなかれ 教会ニュース	……	富永	憲司	……	8

## ぜんだ お膳立て

産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ (創世記1章26～28節)

つつみ たかし  
堤 隆

混沌こんとんに向かって「光あれ」とのみことばで天地は創造され、その最後に造られた人間に「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と語られる。この言葉は成長発展うながを促すだけの景気がいい言葉ではない。この度の感染症のパンデミックに呻吟する者たちにとっても、神のことばである。創世記記者は、産めず増えず地に満ちずの混沌ただなかの只中で、このみことばを聴いたのだから。

だからと言って、低迷する現状を打破せよと発破はっぱをかけるのでもない。「光あれ」が最初なら、最後が「産めよ～」である。料理なら、神はレシピを教えるのではなく自ら腕うでを奮ふるって仕上げ「さあ、食べなさい」と差し出してくださっている。人を第一目に造って「後は自分で生きて行け」と言われたのではない。「産めよ～」は号令ではなく、「彼らを祝福して言われた」祝福のことばである。礼拝の祝福と同じである。我々を喜びのうちに送り出す。「このわたしがお膳立てしてあげたから、食べて行きなさい」という恵みと励ましである。

それでも、気になるのは「地を従わせよ」である。服従させよというのでは高圧的になる。近年のキリスト教批判はここを突く。環境世界を破壊に導いたのは、世界を意のままに従わせよと言う聖書のせいだと。果たして、聖書は人に世界を屈服させよと教えているのだろうか？神が本当にそう言われたのか？神は「地を従わせよ」をすぐに「すべて支配せよ」と言い換えておられる。最近の「聖書協会共同訳」聖書では「治めよ」となっている。最新の翻訳成果というよりも、口語訳聖書に戻っている。地を従わせるのは支配や破壊ではなく秩序を持たせて

治めることによる。26節の「すべてを支配させよう」という神のことばも、「すべてを治めさせよう」である。神の意志が繰り返し明確にされている。それでは、なぜ神は人間にすべてを治めさせようとなさるのか？「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう～治めさせよう」というみこころからである。そして事実、「神は御自分にかたどって人を創造された」。みこころが実行された。それゆえ、人は神ところを同じくして生きるように造られている。混沌の今、未来が見えず、生きる気力さえ萎えそうになっている我々に「それでも神のみこころによって造られた者たちである」と、創世記は慰めと励ましに満ちた救いを宣べ伝える。人は混沌ただよに漂うあぶくではなく、神がご自分に似せて造られた者である。

神にかたどって造られた人間は、「男と女に創造された」。神に男と女があるのではない。「男と女」であってオスメスではない。神はご自分を「我々」と言われる。多神教の神々を自称されるのではない。個と個が向かい合う「我々」であるから、人格(=位格)を持っておられる。人は神から人格を与えられている。人権は国や制度によって与えられるものではないし、生まれながらの資質でもない。我々は、神から人権を付与されている。一言で言えば、神と人とにこころを通じ合わせる事が出来る者とされている。こころを通じ合わせるのは、見るからに違う男と女である。男女間に限らず違う者同士、こころを通じ合わせて生きよと神は言われる。「私がそうできるようにお膳立てしてあげたから」と。このみことばを聴いて、今の困難を祝福を受けて乗り越えていきたい。(札幌北一条教会牧師)